

# Tezukayama

No.30

University Letter  
2011.12.25

 帝塚山大学  
TEZUKAYAMA UNIVERSITY  
「大学通信 帝塚山」企画・編集委員会

## 生駒山上遊園地の衰退と再生の可能性

The possibility for sustainable development of amusement park in Ikoma



帝塚山大学 経営情報学部  
姜聖淑准教授ゼミAチーム

辻本真幸 吉田真也  
中下侑香 畑下善哉  
中山翔太

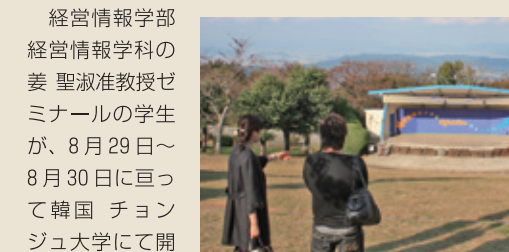


社会と未来を結ぶ  
**絆**  
KIZUNA

[www.tezukayama-u.ac.jp/kizuna/](http://www.tezukayama-u.ac.jp/kizuna/)

東北アジア観光学会  
大学生国際発表大会で優秀賞受賞!

経営情報学部 経営情報学科  
姜 聖淑准教授、辻本 真幸さん、吉田 真也さん  
畑下 善哉さん、中山 翔太さん



生駒山上遊園地の視察

経営情報学部 経営情報学科の姜 聖淑准教授ゼミナールの学生が、8月29日～8月30日に亘って韓国 チョンジュ大学にて開催された東北アジア観光学会大学生国際発表大会に参加し、辻本 真幸さん、吉田 真也さん、中下 侑香さん、畑下 善哉さん、中山 翔太さんが発表した論文「生駒山上遊園地の衰退と再生の可能性」が、優秀賞に輝きました。

論文では、生駒山上遊園地の来場者や従業員へのインタビュー結果に基づいて生駒山上遊園地の現状を分析し、「魅力を活かすこと」と「知らせること」を課題として、利用者のジェネレーション交代に着目。野外ステージの活用や、デンマーク・コペンハーゲンにあるチボリ公園の成功例を挙げるなど、具体的な提案が高い評価につながりました。



生駒市役所でのプレゼンテーションの様子

なお、本学では、今年度より生駒市の商工観光事業の推進のために、生駒市、生駒市観光協会、生駒商工会議所と産学官連携協定を締結し、生駒市の活性化に向けて様々な提案を行っています。今回の論文もその一環として取り組んだもので、9月12日には、生駒市役所にて論文の発表を行いました。学生の発表を受けて、生駒市役所の方々からは、「想像以上の出来」「インタビューの積み重ねによる分析が興味深い」「野外ステージの活用の可能性を探ってみたい」といったご意見をいただきました。



東北アジア観光学会に参加した学生ら

今回の発表を振り返り「フィールドワークで、生駒への観光客の声を直接聞き、実際考えていた以上に企業と観光客のニーズがあっという間を知った」「韓国の学会で発表するのは初めての経験でしたが、とても刺激になった」と振り返る学生ら。

今後更に研究を掘り下げ、生駒市の活性化に向けての取り組みに期待が高まります。



韓国交通公社訪問の様子。学会に参加するだけでなく、韓国交通公社や、韓国の観光地も訪問し、韓国の観光産業について学びました。

# Tezukayama No.30

University Letter 2011.12.25

## Contents

### キャリア特集

03 「帝塚山ファミリー」で支える就職支援

04 文部科学省支援事業「卒業生・保護者と大学の協働型キャリア支援」本格始動  
TF 講座開講中! / 「取材型インターンシップ」を実施しました。

05 「取材型インターンシップ」体験談

06 キャンパスレポート 各学科の話題

08 大学院紹介

09 大学院所蔵資料紹介 / 民俗よもやま噺し / 図書館からのお知らせ

10 第47回 虹色祭 Deep Bond ～深い絆～

11 卒業生紹介 りそな銀行布施口支店勤務 辻本 明美さん

12 研究室訪問 法学部法学科 本間研究室 保護すべきは、人だけか?

14 USRレポート vol.2 平成、昭和の古事記を創る - 赤田研究室、民俗聞き取り調査を実施 / ボランティアルーム

16 キャンパスボイス 帝塚山大学の様々な取組及び活動紹介 / 職員紹介

18 お知らせ・イベントニュース 公開講座 / イベント情報 / その他

20 国際交流 / 入試情報

速報

### 2010年度卒業生 小山 崇さん 公認会計士試験(論文試験)合格!

今年度公認会計士試験の最終試験「論文」の合格発表が11月14日にあり、経営情報学部を昨年卒業した小山 崇(京都府公立菟道高等学校出身)さんが、見事にこの難関を突破しました。今後、実務補習や業務補習(2年以上)を経て、念願の「公認会計士」となります。

同試験は、短答式試験(財務会計論・管理会計論・監査論・企業法)と論文式試験(会計学・監査論・企業法・租税法・選択科目)の2つの難関をクリアしなければなりません。小山さんは2年生の時から、簿記や会計科目の講義を受講し、会計の面白さを知ったそう。3年生になって一念発起し、簿記から猛勉強を始め、いきなり簿記検定の3級試験抜きで、2級に挑戦してパス。これを機に会計士の道を目指して本格的に勉学を続け、4年生の秋に簿記1級に合格。続いて12月には公認会計士試験の短答式試験に挑戦しました。一念発起から2年、ついに「公認会計士切符」を手に入れました。

## キャリア特集

# 「帝塚山ファミリー」で支える就職支援

帝塚山大学では、教職員だけでなく、卒業生、保護者も一丸となって学生の就職活動をサポートしています。帝塚山大学で培われた学びの絆は、卒業後の社会においても「同窓会」活動等を通じて深まっており、在校生保護者による「後援会」や、全国的にも珍しい帝塚山大学卒業生保護者による「帝塚山大学ファミリークラブ」が、大学の教育活動や就職活動をしっかりサポート。帝塚山大学を設置する学校法人帝塚山学園が創立70周年を迎えた今、学園の方針として「帝塚山ファミリー」との連携強化を打ち出し、その絆を大切にしています。

今年度からは、文部科学省支援事業「卒業生・保護者と大学の協働型キャリア支援」の取組が本格的に始動。「帝塚山ファミリー」が全面的にバックアップする「TF講座」や「取材型インターンシップ」といった本学独自のキャリア支援プログラ

ムも始まりました。(次項にて詳細報告)「社会に出る」ということ、「企業に所属する」ということ、「働く」といった社会観や就業感、あるいは社会人としての常識やマナー、価値観を、先輩の立場からリアルに語っていたことで、学生が自立した社会人になるための、参考・刺激になることを期待しています。



私たちがサポーターです!



高橋 直嗣氏  
(帝塚山大学同窓会会長 会社経営)

【メッセージ】  
社会に出れば、コミュニケーション能力があるかどうかで、仕事ができるかどうかが決まります。相手を思いやり、相手の真意を理解する。アイコンタクトを取るといった基本的なことをまず身につけ、「気づき」のアンテナの感度をあげていってください。



細川 順子氏  
(帝塚山大学後援会会長)

【メッセージ】  
帝塚山大学の豊かな環境で、立派な人間性をはぐくんではいるはずですが、個性を大切に、それぞれのよさを引き伸ばして自信をもって社会に巣立ってくれることを期待しています。



岡島 和男氏  
(帝塚山大学ファミリークラブ会長・会社役員)

【メッセージ】  
TF講座は、「絆」をモットーとしている帝塚山大学の特色のひとつ。先輩の経験から謙虚に学び、就職氷河期といわれる今こそ、現代の若者が失いがちな「積極性」や、「粘り強さ」をしっかり身につけ、就職戦線を勝ち抜いてください。

# 「取材型インターンシップ」体験談



**阪口 敦人さん**  
(経済学部経済学科3年)  
受入先企業:有限会社社楽屋

大学1年生の時からコンピュータ・ネットワーク研究会に所属し、IT分野への就職を目指す阪口さん。今回の取材型インターンシップでも、研究機関向けのネットワーク構築を主業務とする有限会社社楽屋を選びました。

同社は、毎年開催されるネットワークコンテストのメインスポンサーにもなっており、業界についてより突っ込んだ内容が聞けるのではないかと期待もあつたそうです。今回の取材型インターンシップでは、改めて取材日を設けるのではなく、随時取材をするという形が採られたため、実際に作業をしながら、あるいは作業を終えたあとに随時取材を行い、リアルタイムに疑問をぶつけることが出来たそう。最初から「取材型インターンシップ」だお互いにかけていることで、遠慮なく質問できたと言います。

「インターンシップでは、相手にわかりやすく説明することの大切さを教えてもらいました。IT業界の単語は専門用語が多いのですが、実際に説明をする相手となるお客様のほとんどがITに詳しくないことが多い。だからITに全く詳しくない人にも分かるように説明できる能力が必要なんだと。ITに詳しくないから、わざわざ専門業者に委託しているんだと何度も教えていただきました。」と、取材にあたっての質問の仕方からも学んだことがあつたと振り返ります。

インターンシップでは、光ファイバーのケーブルチェックや、Android OSをパソコンに導入してリモート接続の動作検証をしたり、取引先施設内のネットワーク環境の確認等を行いました。取材型インターンシップを終えて自信がつかないことは?という質問に、「コンピュータ・ネットワーク研究会や自分で勉強するだけでは身につかないことを経験させていただきながら、実際に働いている人に随時取材していくことで、自分の将来の仕事のイメージが掴めました。」と嬉しそう。

「インターンシップの期間中、機材の動作確認や検証をする作業の繰り返しでした。僕の中で「仕事とは常に大きなことを成し遂げることだ」というイメージがあつたのですが、作業と取材を重ねるうちに、大切なのは「大きなこと」を成し遂げるのではなく、地道に繰り返しこまめな作業をすることで、いつも万全な状態で機材を使用できるようにしておくことこそが大切なんだと気づきました。今回のインターンシップ期間中に感じた自身が引き締まる思いを残したまま、就職活動に臨みたいと思います。」と決意を新たにしました。

今回の取材型インターンシップで自分の目標を再認識したようです。



**開田 真実さん**  
(経営情報学部経営情報学科3年)  
インターンシップ先:有限会社社楽屋

就職活動を始める前に、自分に足りないものを見つけないかと思い、取材型インターンシップに参加しました。インターンシップ期間中、毎日が初挑戦、初体験の連続で、今回の内容についてホームページを作りたいと言った当初は、こんなにたくさんの困難があるとは思っていませんでした。普通のインターンシップは、まずマニュアル通りにこなす印象ですが、取材型インターンシップは、自分で考えて動くことが鍵になると思います。



**本地 広朗さん**  
(法政策学部ビジネス法学科3年)  
インターンシップ先:ホテル近鉄ユニバーサル・シティ

今回の取材型インターンシップでは、常にお客様の満足を追求されているホテルでの研修ということもあり、接客の基礎だけでなく、「いかにしてお客様に満足していただくか」ということを学びました。料飲部の方に取材をさせていただいたときに、顧客満足について「ホテルは非日常を創る場所。いかにお客様が体験していないことを提供しなければならぬ。サプライズも重要で、お客様に感動してもらえたときに、このホテルに泊まってよかったと思ってもらえる。」と教えていただき、常にプラスαのサービスが重要なんだと実感しました。

私は将来、小売業がホテルのようなサービス業に就きたいと考えているので、今回学んだことを社会人になったときに存分に活用できるよう、これからも業界について学んでいきたいと思います。



**井村 紀子さん**  
(人文学部英語コミュニケーション学科3年)  
インターンシップ先:ホテル近鉄ユニバーサル・シティ

従来のインターンシップとは異なり、働いている方々の仕事に対する姿勢や考え方を直に伺うことが出来るということに魅力を感じ、応募しました。

いざ取材をさせていただくと、話を引き出すことの難しさを痛感しました。結局その仕事に対して、自分がどれくらい理解しているのかということを試される瞬間でもあつたと思います。接客業務と接客サービスは違う。取材のときに、料飲部のリーダーに教えていただいたことです。「接客業務とは、マニュアルにかかれたことをすることであり、接客サービスには、相手の心を撃ちぬくことだ。」と教えていただきました。テーマパークのオフィシャルホテルであるホテル近鉄ユニバーサル・シティには、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンでの感動覚めやらぬお客様が訪れるので、その熱を冷まささないサービスを心がけることが、いかに大切か良くわかりました。

## 受入企業担当者からのメッセージ



有限会社社楽屋  
代表取締役 **重兼 史尚氏**

今回の取材型インターンシップでは、あえて普段の業務を手伝ってもらい、実際の仕事を見る経験をしてもらいました。我々の仕事は、研究者と一緒に仕事することが多く、ヒアリング力と提案力が求められます。どの業界で働いても求められることですが、当然コミュニケーション能力がなければ仕事は出来ません。インターンシップにきてくれた阪口さんと開田さんには、厳しいことも言いましたが、二人とも問題解決能力は持っていると思うので、「なぜ」「どうやったら」ということをしっかり意識し、自分なりに考える力をもっと伸ばしていってほしいと思います。そして、すべての学生に言えることですが、自分の色を

他者に伝える能力と他者の話を聞く能力を身につけてほしいですね。そのために、メモを取るということは、非常に重要なことです。仕事において、メモをとるノートと鉛筆は必須です。常に持ち歩いてほしい。パソコンではなく、紙と鉛筆でメモを取る習慣を身につけてほしいですね。アナログが使えない人にデジタルは使えませんから。相手の言うことを全て記録に取るくらいの気持ちでしっかりメモを取り、自分の仕事に活かしてください。皆さんのこれからの活躍を期待しています。

## 【TF 講座講師陣】

※講義担当順

- 岩井 洋教授 (帝塚山大学 副学長 就業力育成支援事業担当)
- 品山 耕一氏 (コーディネーター 平成2年度教養学部卒業 元株高島屋勤務)
- 垣本 和則氏 (平成20年度心理福祉学部卒業 東和薬品(株)勤務)
- 大藏 将史氏・大川 健太氏 (平成20年度法政学部卒業 P.Y.M(株)勤務)
- 勝本 由美子氏 (平成20年度人文科学学部卒業 株阪急阪神ホテルズ勤務)
- 竹中 ゆい氏 (平成19年度現代生活学部卒業 株三見勤務)
- 飯田 卓也氏 (平成18年度経営情報学部卒業 長尾谷高等学校勤務)
- 井龍 俊典氏 (平成20年度経済学部卒業 近畿労働金庫勤務)
- 九之池 龍二氏 (平成20年度経営情報学部卒業 ジョー・プリンス竹下(株)勤務)
- 大和 良輔氏 (平成20年度経営情報学部卒業 大阪府警察本部勤務)
- 長田 昌大氏 (平成18年度人文科学学部卒業 大和信用金庫勤務)
- 青木 万未子氏 (平成20年度経済学部卒業 住友三井オートサービス(株)勤務)
- 大場 晃三氏 (平成6年度教養学部卒業 株ビジョンメガネ勤務)
- 尾崎 聡雅氏 (平成17年度経済学部卒業 株ビジョンメガネ勤務)
- 和田 依子氏 (平成20年度経済学部卒業 大阪厚生信用金庫勤務)
- 仲本 佳代氏 (平成18年度経営情報学部卒業 りそな銀行勤務)
- 福本 和来氏 (平成20年度法政学部卒業 株両備システムズ勤務)
- 寺田 寿子氏 (平成18年度人文科学学部卒業 片山チエン(株)勤務)
- 金ヶ崎 真衣氏 (平成20年度人文科学学部卒業 株ポイント勤務)
- 石田 圭嗣氏 (平成18年度人文科学学部卒業 株日働勤務)



講義の様子

卒業生や保護者を講師として迎え、オムニバス形式で進められる「TF講座」が、後期から開講し、毎週火曜日・木曜日の5限に東生駒キャンパスにて講義を実施しています。講義は、事前に寄せられた各講師への学生からの質問に、講師が答えていくというインタビュー形式で進められます。受講生の半数以上が1年生・2年生で、「学生時代にしておいたらよかったと思ったことは?」「就職活動はどうすすめたのか?」「今の職種を選んだ理由は?」「その業界に進むにはどのような準備をすればいいか。」等等、寄せられる質問は実に様々。多種多様な業界の先輩が語る仕事に対する「生の声」に、

熱心にメモをとる姿が初回から多数見られましたが、回を重ねるごとに積極的な質問・発言が出るようになってきました。「先輩」ということで親近感が湧き、何気ない質問でもしやすくなり、雰囲気よく参加する学生。次年度は、さらに多岐にわたる職種・役職の卒業生や保護者に講師として登壇いただき、学生の職業観・労働観の形成を図ります。



講義終了後、先輩を囲んで質問をする学生ら

## 「取材型インターンシップ」を実施しました

8月下旬から9月に亘って、帝塚山大学の新たな就職支援、「取材型インターンシップ」を実施し、卒業生・保護者が勤務する5社の協力の元、8名の学生が参加しました。「取材型インターンシップ」では、卒業生・保護者の就業先等で、学生が就業体験をするともに、業務内容の状況を取材し、その成果についてビデオやeラーニングコンテンツなどを作成します。学生自らが取材し、コンテンツを作成することは、社会的・職業的自立に必要な資質能力の育成に役立ちます。



報告会の様子

10月29日には、東生駒キャンパスにて「取材型インターンシップ・取材型インターンシップ報告会」を開催し、教職員や学生、受入企業担当者が見守るなか、学生がそれぞれの就業体験について発表しました。学生の「仕事の厳しさを知り、社会人としての心構えができた。この気持ちを大切にしたい」という声も聞かれました。

「この言葉を受けて、企業担当者からは、「この経験を活かして、就職活動を乗り切ってほしい」とエールが送られました。なお、今回の取材型インターンシップで作成されたコンテンツ等は、本学のeラーニングシステム「TIESS」等にアップされ、卒業生や保護者の就業状況や実社会のリアリティを、多くの学生に伝達するためのツールとして活用されます。



取材型インターンシップの流れ

- 7月上旬 説明会実施、参加者募集 エントリーシート提出
- 7月下旬 受入企業決定
- 8月 事前研修
- 8月下旬～9月 取材型インターンシップ 実施
- 10月 事後教育 取材コンテンツ提出 体験報告会開催
- 取材型インターンシップ受入先企業 (株)鶴屋徳満 / (株)近鉄ホテルシステムズ / ホテル近鉄ユニバーサル・シティ / (株)ドルチェ / (株)社楽屋 / カースキヤリアセンター

各学科の取組やその他の話題は、HPで紹介しています。

詳しくはこちら <http://www.tezukayama-u.ac.jp/faculty/> 気になる学部をクリック!!

### 現代生活学部 こども学科

#### 実際に体験し、力を積みあげる

こども学科の幼稚園教諭の資格取得をめざす3年生71人(男子学生25人、女子学生46人)が、9月1日~28日の間(幼稚園の都合により日程の前後があります)、幼稚園実習に参加しました。学生の居住地周辺の45カ所の公立・私立の幼稚園に、1人から5人のグループに分かれての体験実習です。



2年次に保育所実習を4週間体験している学生がほとんどで2回目の実習です。3年前期の「教育(幼稚園)実習事前指導」の授業では、「保育所と幼稚園の子どもの姿の違いはあるのか」「保育所と幼稚園の先生のかかわり方は違うのか」と様々な質問や意見を出しあうなどの準備を行い実習に臨みました。

9月末~10月初め、日常生活に戻った学生の感想は、「保育所実習の先生方から受けた指導は、本当に厳しく、心が折れそうになったが、そのおかげで今回の幼稚園実習では記録・指導計画などスムーズに記述できた」「子どもの好きな遊びを見つけだし、それを題材に遊びを計画すると子どもたちがすごく楽しめる活動となった」など、学校の授業で学んだことを教育現場の実習で体験し、各自がより力を積み上げつつあるこども学科3年生です。

### 経済学部 経済学科

#### 野村證券株式会社の提供講座 『ファイナンス入門Ⅰ』開講中!

今年度後期の授業で、野村證券株式会社の提供講座『ファイナンス入門Ⅰ』を開講しています。この授業は、講義内容から資料まで、同証券が全面的に提供されているもので、経済学部ばかりでなく経営情報学部の学生も受講できるユニークなものです。

その第1回目が9月29日4時限目に開かれ、「ガイダンス」として、同証券大阪支店金融公



野村証券大阪支店金融公 法人部長の塚本 満氏による講義

最近の金融危機による米国・欧州の経済の不安定化、中国・インドをはじめとする新興国の台頭など、経済の変化には著しいものがあり、そのなかで、日本の経済的地位がだんだんと低下しつつある現状などに触れ、金融を窓口

に世界の変化を見ていくこと、自分の生き方を見つめていくことの大切さを強調されました。学生たちも日本とグローバルな視点を通して考えることを学び、興味深く聴講していました。

この授業はオムニバス形式で毎回講師の方が変わり、今回を含め13回の講義を予定しています。なお、今年度のすべての講義の様子は、大学ホームページの経済学部ニュースでも順次紹介しています。

### 人文学部 日本文化学科

#### お箏と日本舞踊から 日本文化の魅力を体験

10月28日、「日本生活伝統文化論B」の授業において、生田流箏曲師範の丹野ゆうこ先生を特別講師としてお迎えし、日本舞踊とお箏の演奏を披露いただきました。

講義では、まず、日本の伝統芸能・芸事であるお茶・お箏・日本舞踊のコラボレーション舞曲「茶音頭」を、丹野先生によるお箏の演奏と地唄(じうた)に、講義担当の野々村先生がお茶のお点前(てまへ)の所作を表現した踊りを合わせて披露。次に、丹野先生がお箏や爪の形状と材質、生田流と山田流の違い、十三弦あるお箏の弦と琴柱(ことじ)などについて説明くださり、お箏の演奏方法について、先生オリジナルの楽譜を用いて、実演を交えて丁寧に教えてくださいました。そして最後に、八橋検校作曲の有名な古曲「六段の調べ」[みだれ]の一節と、新曲「花織り」、宮城道雄作曲「ロンドンの夜の雨」を演奏くださいました。



特に最後の曲では、先生の指と十三弦の箏からさまざまな雨音が見事に表現されたことに、学生一同とても感動し、大きな拍手を送りました。また、お箏を触ったことのない学生にも、先生ご持参のお箏を弾かせてくださり、学生は貴重な経験に緊張しながらも感激していました。

### 現代生活学部 居住空間デザイン学科

#### 飛鳥時代の歴史や建造物から学ぶ

9月6日、13日に集中講義「奈良学研究Ⅰ」の臨地学習で奈良県高市郡明日香村へ見学に行きました。参加学生の理解を深めるために、本年度は受講者を学年別に2グループに分けて少人数体制で実施しました。

事前に飛鳥時代の歴史や建造物について学内講義で学んだ後、古代日本の重要な歴史の舞台を実際に一日がかりで見学。鬼の俎板・鬼の雪隠や亀石、飛鳥池遺跡などの石造物の前では実物ならではの迫力に歓声があがっていました。また高松塚壁画館や飛鳥資料館では、数多くの貴重な資料や展示品が並ぶ館内をじっくりと見学しました。



猛暑の中をレンタサイクルや徒歩で移動するのは体力的に非常に大変でしたが、中西 靖人准教授の熱のこもった解説に学生たちは真剣に聞き入っていました。またレポート用の写真を撮ったり、自分たちから積極的に質問したりするなどの場面も見られました。「奈良学研究Ⅰ」では、他にも桜井の纏向遺跡や大和西大寺の平城京へも臨地学習で赴き、時系列的に五感をフルに活用して、奈良の歴史・文化を学ぶことができました。

### 現代生活学部 食物栄養学科

#### 食物栄養学科の学生は夏休みに多数の 実践的な学外研修に参加しました



食物栄養学科では、今年の夏休みに、例年以上に多数の学外研修やボランティア活動を企画し、多くの学生が積極的に参加しました。

8月21日から25日にかけては、和歌山県立紀北青年の家で行なわれた「近畿つばみの会サマーキャンプ」のボランティアに学生が参加し、子どもたちに「仲間づくり」「自己管理の仕方」「カーボカウントによる食事とインスリン量の決定」等が身につくように指導しました。

また、8月23日から26日にかけては、(財)古都飛鳥保存財団設立40周年企画の「飛鳥夏休み楽校」にリーダーとして学生が参加しました。

9月6日には、3年生が徳島の大塚製菓グループの工場へ行き、飲料水やソイジョイの工場のほか、能力研究所も見学し、発想の転換と企業としてのあり方などを教えていただいたり、兵庫県尼崎市にあるホテルモントレグループのセントラルキッチンである「モンレフードセンター」に、最新の給食現場や新調理システムを学ぶための見学にも行きました。

その他にも、9月15日、16日には、高知医療センターでの臨床栄養研修を実施。学生50名が参加し、最先端の臨床栄養学を学びました。食物栄養学科では、今後もこのような実践的な学生の学びの機会を設けていきます。

## 各学科の話題

### 法学部 法学科

#### 奈良県警察講座『警察組織と警察実務(仮称)』 その他の講義が始まります!

法学部法学科には公務員コース、ビジネス法コース、暮らしの法コースがありますが、とりわけ人気があるのが公務員コースであり、その多くは警察官志望者です。こうした状況を鑑みて、法学部では警察官志望の学生の夢を実現するためにカリキュラムの大幅な入れ替えを予定しています。

その第一弾として来年度より奈良県警察と共同で「警察組織と警察実務」を実施すべく準備を整えています。また、元警察学校長を教員スタッフとしてお迎えし、前述の講義のほか、特殊講義として「警察研究A」「警察研究B」のみならず、「警察演習A」や「警察演習B」といった演習科目の開講も予定しており、これに従来から実施している警察官実務講座や面接対策講座を加えてより充実した内容にする予定です。

以上のようなカリキュラム強化の目的は、警察官採用試験に合格するだけの小手先の受験技術を指導するのではなく、学生が晴れて警察官となった後の人生にも役立つ内容の講義を提供することにあります。



警察官面接対策講座の様子

### 経営情報学部 経営情報学科

#### CompTIA Strata IT Fundamentals 合格率 9 割を達成

今やビジネスのあらゆる場面においてITスキルが必要になっています。特に新しい技術に関する知識や情報を扱う上でのモラルなどは不可欠です。国際的に通用するIT資格「CompTIA」の中には様々な資格があり、このようなビジネスにおいて基本的なITスキルを証明する資格として「Strata IT Fundamentals」が知られており、この度、経営情報学部と情報教育研究センターが講習会および試験を実施し、これまでの全国平均を上回る約9割の合格率を達成しました。



熱心に講習会に取り組む学生たち

8月29日および30日に、資格内容に関する講習を行い、講習の最後にNPO ILAにお願いして学内に設置してもらったテストセンター(別教室)で受験するという強行スケジュールにも関わらず、経営情報学部からの19名の参加者のうち、17名が合格することができ、合格率は全国平均の約75%を大きく上回る約9割を達成することができました。この講習会を企画した経営情報学部の日置教授は、「夏休みに入るときに、テキストと練習問題を配付し、講習会までに各自しっかりと勉強してくるようにと伝えたことが功を奏したのではないかと話されています。この講習会は継続して実施しており、第2回目は今年の12月27日、28日に実施します。

### 心理学部 心理学科

#### 心理学科4年生が認知神経学会で ポスター発表に採択、発表を行いました

10月23日に北九州市の産業医科大学で開催された認知神経学会学術集会で、心理学科4年生の山下 雅俊さんがポスター発表を行いました。山下さんのテーマは「睡眠障害型慢性疲労モデルにおける社会的スキルの神経科学特性に関する検討」で、「不登校のモデル」。

不登校の80%に睡眠障害が認められているため、心のケアだけでは十分な回復・復帰が難しいことから、ラットによる実験で、慢性疲労抵抗因子として想定されるベータ・エンドルフィンが疲労感の軽減に作用するかを調べたところ、効果が得られました。山下さんの発表を聞いた九州大学医学部教授・谷脇 考恭座長がわざわざ山下さんのところに来られている質問されると、山下さんは作成した動物モデルの特徴や苦労した点などをしっかり回答し、谷脇教授から多くのアドバイスをもらいました。山下さんの研究が好評であったのは、ゼミを履修している期間だけの実験ではなく、指導にあっている山本 隆宣教授が長年に亘って重ねてこられた研究(トリプトファンが精神疲労を引き起こすことを明らかにした)との融合でもあり(このトリプトファンが上記のベータ・エンドルフィンにより抑制されることがわかった)、いわば年季の入ったオリジナル性の高い研究で、データに科学性がありクリアであったから、とされています。初めての学会発表で過度に緊張していた山下さんですが、無事に発表を終え貴重な経験をしました。そして、なぜこの物質で効果が得られたのかについて、引き続き卒業研究の後半の課題として取り組んでいます。

### 人文学部 英語コミュニケーション学科

#### TOEIC IPテストを受験

10月22日、英語コミュニケーション学科の2・3年生がTOEIC IPテストを受験しました。TOEICは実用英語力を計る試験であり、高得点を取得すると就職活動にも役立ちます。自身の英語力のレベルを知り、その後の勉強と就職活動に役立ててもらうため、英語コミュニケーション学科では2・3年生にTOEIC IPテストの受験を義務づけています。なお、7月1日には通常のTOEIC IPテストより難易度が低いTOEIC BridgeのIPテストを1年生が受験しました。テスト費用は、1年生は学科が全額負担し、2・3年生は学科が4分の3を負担しています。



英語コミュニケーション学科では、学生にTOEICを受験させるだけでなく、学科のカリキュラムにTOEIC関連科目(入門~Advanced)を設け、夏休み中にはTOEIC対策講座も開いています。また、図書館以外に資格問題集等を備えた英語共同研究室を利用して、スコアアップのために勉強している学生もいます。TOEIC試験をきっかけに、更なる英語力のブラッシュアップを期待しています。

### 心理福祉学部 地域福祉学科

#### オープンカレッジを 開催しました



帝塚山大学では、地域福祉学科の学生が中心となり、知的障がいを持つ18歳以上の方を対象に、大学を開放してオープン・カレッジを開催しています。

10月16日、今回初めてリフト付き観光バスを仕立てて、交通科学博物館と大阪市下水道科学館へ校外学習に行きました。受講生15名、本学学生16名、卒業生6名、教職員5名、総勢42名で、両館とも、受講生の方は、サポーター(学生)と思いに思いに見学し、昼食は交通科学博物館の庭でシートを広げ、楽しく食べました。サポーターの学生は、展示物にきづけになっている受講生に時間を気にしながらもご同席し、地下探検号にも一緒に乗車しました。

受講生の方には、この感想を12月のまとめの会で発表していただく予定です。下見に行ったり、スケジュールを組んだり、企画担当の学生には大変でしたが、外出サポートの良い実践の場となりました。



人文科学研究科 / 日本伝統文化専攻

## 日韓次世代学術フォーラム 第8回国際学術大会に参加



「日韓次世代学術フォーラム第8回国際学術大会」が、8月23日、24日の両日、韓国・釜山広域市の東重大学校にて開催され、博士後期課程2年の木村友紀さんが歴史分科会で発表しました。

木村さんは、研究テーマは、「東アジアの造瓦技術」日本における滴水瓦の導入と変遷」。

今までの滴水瓦の研究では、

韓半島と日本の滴水瓦を比較した場合、最も大きく異なる点は、日本では奈良時代後半以降衰退していった平瓦の桶巻き作りの技法が機械化された現代まで残っている点であり、接合角度や布目痕の有無は、桶巻き作りか一枚作りかという問題に付随するものであるため、桶巻き作りか一枚作りかを考える上で分析視点の一つとして、文様面の接合方法を新たに加えることが必要であることを提言しました。また、この分析視点を加えることが、滴水瓦の年代観を考察する上での一助となることを考えを披露しました。

この国際学術大会は、毎年日本と韓国で交互に開催され、司会、発表、討論、通訳のすべてを、院生を中心とした若手研究者で行い、国籍だけでなく、学問的にも様々な分野を横断しているような発表を行います。東大や京大、ソウル大学といった日韓の錚々たる大学院生が参加する本大会で発表するには、事前の選考を潜り抜けなければなりません。「滴水瓦の研究において、韓半島の瓦と比較し、新たな切り口による検討方法を提言したことが評価につながったのでは」と指導教員の清水 昭博准教授も評価。木村さんの今後の研究が注目されます。

経済学研究科 / 経済学専攻

## 「経済」のプロフェッショナルをめざす

経済学研究科 経済学専攻のキャリアラムは、経済学分野と経営学・会計学分野の2分野からなっています。経済学分野は、現代経済研究をメインテーマとし、マクロ経済、アジア経済、財政・租税制度、金融制度などに関するものについて、自ら問題を見つけ、それを解決する能力を身につけた人材育成を目標としています。経営学・会計学分野は、現代企業研究をメインテーマとして、企業経営の組織分析、経営管理システムや企業統治などの最先端の経営問題、国際会計や環境会計など現代的な会計制度問題に関わり、それらを読み解くことのできる人材育成を目標としています。

さらに、博士前期課程においては「研究者志望コース」、「税理士志望コース」(税制サブコー

ス・会計サブコース)、「社会人向け修士号取得コース」の3コースを設けています。研究者志望コースでは、博士前期課程を終了後、博士後期課程に進学し、将来は研究者をめざす人を対象としています。また、税理士志望コースでは、修士論文を作成し、税理士資格を取得することを志望する人が対象です。社会人向け修士号取得コースでは、これまでの社会人経験を活かし、それを理論的に分析したり、そこで出会った問題を解決することで、より高い能力を身に付けることを目的とする人が対象です。

現在は、修士課程1年が4名、2年が7名、また博士課程は1年1名、3年1名が在籍し、それぞれの目標に向かって研究に励んでいます。

法政策研究科 / 世界経済法制専攻  
高度人材GP(その後)

平成18年度の文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業」長期インターンシップ・プログラム開発」において法政策研究科より申請した取組「マルチブレイクコンテンツ知財専門人材育成」が選定され、これまで様々な成果をあげてきました。

3月11日には東生駒キャンパスにて「帝塚山大学5年間のあゆみ」と題して前述の取組みを総括するためのシンポジウムを開催。それ以降、法政策研究科では、これまでの成果を今後の研究科の教育や研究に活用すべく、文部科学省からの事業支援が終了した平成23年度においても、「マルチブレイクコンテンツ知財専門

人材育成」の中心である「高度人材インターンシップ」を継続し、企業との連携やその依頼に応じています。

日本政府が知的財産立国政策を打ち出して久しいですが、研究科による上記の取り組みの成果が同政策に貢献できることは喜ばしい限りです。プログラムの途中では大なり小なり様々な問題に直面することもありますが、関係各位の支援で困難を乗り越えることが出来ました。



大学院所蔵  
資料紹介

## 朱塗膳

帝塚山大学大学院 人文科学研究科  
日本伝統文化専攻博士後期課程2年

池端 夏実

今回紹介する資料は、お食い初めの時に使用する朱塗膳(江戸時代)です。人は年齢を重ねるに応じて様々な通過儀礼をします。その一つに赤ちゃんが生後百日目、または百二十日目に行う「お食い初め」という儀式があります。これは子供が一生食べ物に不自由ないようにとの願いを込めて食べ物を食べさせる儀式です。

膳の内容は一汁三菜が基本で、焼き物、すまし汁、煮物、香の物、赤飯を用意します。

また「膳組み」という配置の決まりがあり、「お食い初め」の場合は、手

前から右に汁椀、左に飯椀、左奥に湯椀、右奥に平椀、真ん中に菌固め(餅など)をおきます。

その真ん中の器に一部地域では丈夫な菌が生えるように、菌固めの石を置く地域もあります。塗物の椀は近世以降各地に漆器産地が整備され、冠婚葬祭用の食器として、飯椀・汁椀・つぼ椀・平椀が膳と組み合わせて生産されるようになりました。

お食い初めて使う膳は、一般的には男児はすべて朱塗りの「総朱」、女児は外が黒塗り、内が朱塗りの「黒内朱」を用います。



この日本の伝統的な食文化に子ども達の健やかな成長を願う親の気持ちがあがえます。

## 民俗よもやま 七種

帝塚山学術評議員(元・帝塚山大学学長)  
国立歴史民俗博物館名誉教授・文学博士

岩井 宏實

正月七日は「七日正月」。六日の夜から七日の朝にかけては、一年のうちでも大切な夜とされ、「六日年越」とか「六日年取」の呼称がある。この七日を「七種(七草)」と呼び、七種類の草を粥に入れて「七草粥」を食べる風習はほぼ全国的である。七草とは芹、仏座、御形、繁縷、松、蘿蔔、薺で、「春の七草」という。

これらの菜は六日の昼に摘んでくる。それを「若菜迎え」という。そして、六日の夜に組板の上で音を立てて刻むことから、「菜を叩く」という。そのとき「唐土の鳥が日本の土地に渡るぬ

さきに七草なすな」と唱えながら叩く。できるだけ大きな音を立てるとよいといつて、組板の上に金火箸をのせて包丁で菜を叩く。金火箸が跳ねて大きな音を立てるのである。これは、年頭にあって農作物に害をおよぼす鳥を追い払う「鳥追い」の行事を習い合したものである。

ところで、組板の上に金火箸をのせるのは新しい風で、年末は組箸をのせたのである。というのは、もともと



組板と組箸(金箸)と包丁が調理の三点セットだったからである。

人文科学研究科 / 臨床社会心理学専攻

## 院生、修了生が指導教授とともに 日本応用心理学会第78回大会で研究成果を発表

10月10日、11日に、本学大学院生、修了生、それに心理学の教員ら20余名が初秋の信州大学(松本市)に行き、伝統のある学会で研究成果を発表しました。(発表内容は下記の通り。(全てポスター発表)。各発表テーマも多岐にわたっており、参加者から大いに注目され、関心が寄せられました。

また、大会企画シンポジウムや自主シンポジウムでも新進気鋭の谷口准教授やこの春本学の修士課程を終えた野田さん(京都大学大学院後期課程)が企画・話題提供者としても活躍しました。

大学院臨床社会心理学専攻は、来年度人文科学研究科から独立し、関西初心理学研究科心理学専攻に生まれ変わります。学部教育とも

- ▶「リーダー・プロトタイプ像を規定する要因の特定化」 森下 雄輔さん(社会心理学専修2年)
- ▶「運転態度の年代変化」 南方 絵理さん(社会心理学専修1年)
- ▶「看護学生に対するキャリアサポートの必要性について」 門川 清美さん(臨床心理学専修1年)
- ▶「介護職従事者におけるバーンアウトと仕事のやりがいの考察」 古淵 和佳さん(修了生)
- ▶「自己志向的完全主義者におけるソーシャル・サポートが抑うつに及ぼす影響について」 堀内 伸起さん(臨床心理学専修1年)
- ▶「聞き手と話し手の笑顔測定における相互影響過程の移動相互相関分析」 安原 久美子さん(修了生)
- ▶「ひとりである能力及び基本信頼感の欠如が集団化傾向に及ぼす影響」 川西 沙也加さん(臨床心理学専修1年)
- ▶「大学生の悩みと相談行動に関する研究」 門 有里佳さん(臨床心理学専修1年)
- ▶「共感性と孤独感および社会的スキル、ペットの有無の相互関連性について」 森本 靖彬さん(臨床心理学専修1年)
- ▶「興味のあるものや好きなものに対する熱心さが精神的健康に及ぼす影響」 中西 友希子さん(臨床心理学専修1年)
- ▶「先輩看護師が新人看護師への対応に感じている職務上の困りごと」 西村 由美子さん(臨床心理学専修2年)

連携して、ますます充実した教育・研究活動を展開していきます。

## 図書館からのお知らせ

東生駒キャンパス図書館が、耐震補強工事を完了し、リニューアルしました!

夏季休業期間中、東生駒キャンパス図書館は、強い地震にも耐えられ、利用者みなさまに安心して利用していただけるように耐震補強工事を行い、明るい図書館としてリニューアルしました。また、新しい空間と創造の場として活用してください。

## 本学教員の執筆図書を紹介

コミュニケーション再生のための  
地域自治のしくみと実践  
中川 幾郎(法学部法学科教授) 編著 学芸出版(¥2,415(税込))

新たなビジネスモデルの確立に向けて  
日本郵政グループの持続的発展を目指して  
富田 新(経営情報学部経営情報学科講師) 共著 J-PC総合研究所

大学生のための日本語の基礎 入門編  
中谷 克己(人文学部日本文学科教授)、野村和代(人文学部日本文学科講師) 共著 帝塚山大学出版会(¥1,200(税込))

## 先生オススメの本

経済学部教授 浄土先生が推薦された本を紹介します。



読んだら使える  
日経新聞の読み方  
角川 総一著(明日香出版刊)

いねむり先生  
伊集院 静著(集英社刊)



地球一周空の旅  
(パイインターナショナル刊)



<図書館調べ>

# 卒業生紹介

言葉の影響力ってとても大きい。だから相手の心に響く言葉が使えるように「言葉の引き出し」を増やしたい。

りそな銀行 布施口支店に勤務し、約2年前からチームリーダーとして活躍している辻本 明美さん。チームリーダーとして、投資商品の運用の提案や、保険商品のご案内、法人のお客様の対応など、窓口業務を支え、様々な業務に取り組み姿勢はとて真摯。現在は、チームリーダーとして活躍している。現在の道への最初のターニングポイントはいったったのだろうか。

アルバイトを通じて「接客にこだわりを持つ」

「学生時代にいろいろなアルバイトを経験しました。アルバイトは全て接客業でしたが、ある時、コンビニエンスストアでレジを担当しているときにお客様からあなたの笑顔を見て来ていますと言われる嬉しい出来事がありました。それがきっかけで、接客が好きになり、お客様に笑顔になって帰っていただき



辻本 明美さん  
2005年3月経営情報学部経営情報学科  
りそな銀行布施口支店勤務



# 第47回 虹色祭

★ 2011年10月9日・10日 ★

Deep Bond ~深い絆~



**MISS 帝塚山 決定!**

今年のMISS 帝塚山No1 コンテストには、各学部から計6名の学生が参加。審査は、ウォーキング、ファッション、演技の総合点で競われ、グランプリに佐藤 明日香さん(人文学部日本文化学科3年)、審査員特別賞に長谷川 碧さん(現代生活学部こども学科1年)が選ばれました。

CLOSE UP

## 学生有志による 東日本大震災義援金募金を実施

大学祭の2日間、こども学科3年生の有志11名が東日本大震災復興支援および台風14号被災者支援の募金活動を行いました。2日間で東日本大震災の募金が9,504円、台風14号被災者の募金が16,394円集まりました。彼らは今年の4月から学内外で募金活動を行ってきたメンバーです。このように募金活動を続けていることについて、リーダーの政辺 和哉君から話を聞きました。

「自分達が住む日本であれだけ大きな災害がありました。半年しかたっていないにも関わらず、もう過去の出来事のようになっています。あの出来事を風化させないため、自分達の出来ることを少しずつでも地道に続けていこうと皆で話しあってきました。大学祭には学生だけでなく、学外の人も大勢来ます。多くの人にその気持ちをわかってもらえる機会だと思いました。」彼ら自身はこれから、実習や就職活動などがあり、今後の募金活動について予定は決まっています。

「できれば後輩達にこの気持ちを受け継いでほしい、そう願っています。もちろん就職活動等が落ち着けば自分達でも活動は再開したいと思っています。」彼らの意思を後輩達が引き継いでくれることを切に願います。



## 仲間との深い絆がテーマ

10月9日・10日の2日間、帝塚山大学東生駒キャンパスにて、大学祭「虹色祭」を開催しました。

今年のテーマは「Deep Bond ~深い絆~」。このテーマには、虹色祭を通して、仲間と深い絆で結ばれてほしいという思いが込められています。

初日はもちろん、2日目も10時のオープニングから多くの来場者が詰めかけ、会場であるキャンパス一帯、終始盛り上がりがありました。

「E」や「帝塚山大学ミスコンテスト」でメインステージは一層の賑わいをみせました。また、模擬店も趣向をこらしたメニューが並び、邦楽部や茶道部などの文化部も日ごりの活動の成果を発表していました。別会場では「第14回帝塚山大学留学生日本語スピーチコンテスト」「第8回中国語朗読コンテスト」を開催。発表を終えた参加者を大きな拍手で讃えました。

虹色祭ラストは、キャンパス内グラウンドから打ち上げる花火で2日間の盛り上がりをしめくくりました。大輪の花が咲く夜空に、来場者は感慨深く見入っていました。



学生時代の思い出の一枚  
ゼミでお世話になった日夏 嘉寿雄教授と卒業式にて。ゼミでは日夏教授の下で、経営の基本や戦略について学んだ。先輩、後輩、そして日夏先生と交流し、情報交換する中で、今後の自分のあり方、今の自分、将来の目標を立てる要素としての知識が増えたという。

Q.尊敬する人は?  
A. 母です。妻として、母として、女性として、社会で活躍している女性として尊敬しています。社会人になって、初めて「はたらく」と言うことの大変さを感じました。人生の先輩でもあり、社会で活躍する女性として、良いことも悪いこともアドバイスしてくれます。

Q.最近読んだオススメの本は?  
A. 「女性はマナーで9割変わる」さりげない気遣いや、立ち居振る舞いで印象が大きく変わります。当たり前のことこそ、疎かにになりがちなので、気を引き締められます。

自分の支店だけでなく、近隣の支店に問い合わせたりと、一緒に探しました。その後、違う場所で見つかり、ご連絡した所、一緒にお探したことを大変喜んでいただき、感謝のお手紙をいただきました。あの時の一生懸命さを忘れないう、そのお手紙は大切にしています。」と一通の手紙を見せて下さいました。

努力すると、道を開く  
きっかけに繋がる

明るい笑顔が印象的な辻本さん。仕事では、常に謙虚さと向上心を持ち続けるような心がけているそう。月に3冊は、自己啓発本を中心に本を読むといます。

「自分の言葉の引き出しを増やしたいんです。言葉の影響力って、とても大きいと思うんです。だから、書籍や先輩や友人との会話の中で「これだ!」というキャッチフレーズに出会うと、

必ず書き留めるようにしています。そして、接客するときにそのフレーズを使うんです。年齢や、性別、状況によって、お客様の心に響く言葉で伝えれば、これからも、努力して、お客様の心に残る存在になりたいです。社内では、目標とされる女性になりたいですね。」と語る表情は清々しく、とても頼もしい。

チームリーダーとして活躍する辻本さんに「部下を指導することは大変だったのでは」と水を向けると、

「チームリーダーになって最初の1年は、話を聞いてもらえなかったり、本当に大変で心が折れそうになることもよくありました。どうしたらいい結果を出すと、自ら難しいことをやってみることに、そして教えるときに「なぜ」を明確にした説明を心がけました。あと、年上の方とコミュニケーションを取るために、年齢にあわせた情報を収集して話をあわせる努力もしましたね。最近になって、やっとチームのみんなにも信頼してもらえ、自分が実感できるようにになりました。」

自分の中でも、何かが大きく変化した手ごたえを実感しているよう。厳しい状況にも負けずひたむきに努力したことが、今のキャリア、道を開くきっかけになったのでしょうか。最後に後輩へのメッセージとして、

「先輩の方と交流する回数を増やしてほしいですね。年上の方と交流すると、良いアドバイスがいただけ、聞き上手、話し上手になれるます。自分の引き出しが増えますから。」



恩師からのメッセージ  
元経営情報学部教授 日夏 嘉寿雄先生

辻本さんとは、今年の5月に卒業生有志で開いてくれた私の「退職激励会(?)」で久しぶりにお会いしました。元気に活躍のこと、非常に喜んでいました。我々教師にとっでは、教子が活躍している様子を聞くことが一番の褒美だと思っています。辻本さんとは3年間をゼミ生として一緒に勉強してきました。彼女はガリ勉タイプの学生ではなく、通常の授業ではそれほど目立っていませんでしたが、成績は非常に優秀で、その理由を聞き、疑問点をなくし、考え方を一つづつ努力していただきます。との答えでした。その当時、努力は必ず報われることを認識し、地道な努力を続けていました。それが今日の成果・業績につながっていると思います。

辻本さんの卒業レポートでは「ユニーク」がどうして顧客に受け入れられているかの研究でしたが、顧客志向の考え方はその頃から培われていました。それだけ他の人より早く将来の目標を持って精進していたのでしょう。特に、経営についての考え方は前向きで、自宅の遊休地をどのように活用したら良いのかを真剣に考えていました。やはり、経営センスが小さい頃から實質として芽生えていたのでしょう。男社会の傾向の強い金融機関で、頑張っておられることを非常に頼もしく思います。一層の活躍を期待しています。

大学は在学中だけのものではありません。卒業した今も、何らかの必要があれば、母校を大いに利用してください。それは大学側も大いに望んでいます。仲間と楽しく語り合う機会を持ちましょう。



ゼミの様子 模擬裁判形式ですすめられる

「自然の権利」のような公共的な性質を有するものを保護しようとする場合には、多くの障害が存在します。そもそも「自然の権利」といったものが法的保護に値するものなのか、また民事訴訟でそれを保護する必要があるのかは一つの問題だと思いますが、民事訴訟法が果たすべき役割を考える上で、非常に興味深い問題だと思えます。

— 今後の研究の方向性や抱負について教えてください。 — 先述した国際的二重訴訟の研究については、まだ自身の考えを明確に打ち出すに至ってないので、研究を進めて一定の考えを打ち出したいですね。また、最近、訴訟手続のIT化と訴訟原則との関係や、自然環境保護などの公共的な利益を民事訴訟手続の中で実現する方途を考察する機会を得ました。いずれも、実効的な権利保護と密接に

— ゼミで特に気を付けられている点をお聞かせください。 — 民事訴訟法は抽象的かつ難解で、ときに「眠素」であると揶揄されますが、ゼミでケーススタディをする中で学生諸君に訴訟手続を具体的に体感してもらおうと同時に、どのような人に対してでも相手の立場を尊重し、その者の言い分に真摯に耳を傾ける姿勢を身につけてもらえよう努めています。また、学問としての民事訴訟法に興味を持ってもらうことはもち

### 研究に 欠かせないモノ Close Up!

「ドイツ語」・「ドイツ語文献」

主にドイツ法を比較検討の材料としているので、欠かせません。



照海 雄太さん (3年)

本間先生は、厳しいけれどとても頼りになる先生です。

2年生の時に本間先生に小論文の授業で色々なアドバイスや法律の授業に関する助言をしていただき、3年生になったら本間ゼミを受講しようと考えていました。今は、模擬裁判の中で自分達独自の手法で法律について調べ、それを自分たちの知識として身につけていっています。

ゼミはとてもアットホームで、本間先生も親切かつ厳しく指導してくれるのですごく力がつきます。ゼミの討論で鍛えられたディスカッション力を就職活動でも活かしたいです。

【先輩へ一言】ゼミはそれぞれ内容も違いますし、レポートの回数も違います。本間ゼミでは、毎回グループごとにレポートを書くので大変ですが、間違いなく力になります。在学中だけでなく、社会に出てからもこの経験は必ず役に立つと思います。ぜひ本間ゼミに入ってください!

本間先生は、本棚みたいな先生。生き字引のようになんでも知っています!

模擬裁判形式で授業が進められることに魅力を感じ、本間ゼミに決めました。今まで勉強してきたのか、実際にどう活用できるのか身をもって知ることができると考えたからです。ゼミでは、原告・被告・裁判官で班分けされるのでチームワークが必要となり、誰かが授業に参加しない(発言しない)ということはありません。本間先生は、サブゼミなどで私たちに助言はしてくれますが、発表中は終

始学生が主体となって進むので、行動力や主体性が身につきます。私は、何故こうなったのか、何故こう考えたのかを論理的に自分の言葉で相手に話すことを本間ゼミで学び、このスキルは就職活動の面接でも役に立ちました。将来は、筋道をたてて話すことが出来る、話がわかりやすい人になりたいです。

【先輩へ一言】本間ゼミは、決して楽ではありません。しかし、やればやるだけ結果が返ってきてやりがいがあります!先生はとっても優しく、厳しい人です。4年生になって、就職の相談やエントリーシートの添削や人生相談もしてくれて、私にとって信頼のできる人の一人です。先輩のみなさんも、自分にとってやりがいのあるゼミを選んでください。そして、信頼できる人を大学で見つけてください。



池野 愛美さん (4年)

— 本間先生にとって、その専門分野の魅力(醍醐味)は何でしょうか。 — 渉外的な訴訟において実効的な権利保護を確保するためには、国家間あるいは多国籍間の訴訟制度の調整が必要になります。各国の訴訟制度はそれぞれ国の法文化などを反映して相互に異なりませぬ。このような制度間の緊張関係の中から、渉外訴訟における実効的な権利保護のための共通のルールを見出そうとする点に魅力を感じています。

— 先生にとつて印象に残っている訴訟事件について教えてください。 — 事件そのものは行政訴訟ですが、民事訴訟法理論を考える上で示唆的な事件として、「アマミノクロウサギ訴訟」が印象に残っています。



連邦通常裁判所(日本の最高裁判所にあたる)。ドイツ留学中は、ドイツ連邦憲法裁判所なども訪問し、学んだ。

絶滅危惧種で国の天然記念物にも指定されているアマミノクロウサギが住む奄美大島で、ゴルフ場建設計画が持ち上がったのが事件の発端です。ゴルフ場の建設により、アマミノクロウサギは、住処である森を失う恐れがありました。

そこで、環境保護団体を中心に反対運動が起こり、ゴルフ場の建設を阻止するために訴えが提起されました。このとき、この裁判の原告弁護団は、裁判所に提出した訴状に、アマミノクロウサギを裁判の原告として記載したのです。動物であるウサギが裁判をする!という点で、当時多くの耳目を集めました。

この訴訟をきっかけに、「自然の権利」を広める運動が広がりました。アマミノクロウサギの訴えは最終的に認められませんでした。裁判所は、「原告らの提起した『自然の権利』という観念は、人(自然人)及び法人の個人的利益の救済を念頭に置いた従来の現行法の枠組みのままで今後もよいのかどうかという極めて困難で、かつ、避けては通れない問題を我々に提起したということができる」と述べ、原告らの訴えに真剣に向き合っている姿勢を視せました。

民事訴訟は、原則として個人が持つ権利や法的利益を保護するためのものとして制度設計されています。したがっ

ない。自然と人間の関係そのものを「自然の権利」として保護できないか。そう考えた訳です。

## 「保護」すべきは、人だけか?

法学部 法学科 本間 学 准教授

1998年 立命館大学法学部法学科卒業後、同大学大学院法学研究科博士前期課程、ドイツ連邦共和国・フライブルク大学留学を経て、2004年、同大学院博士後期課程単位取得退学。朝日大学法学部准教授を経て、2010年より帝塚山大学法学部法学科准教授として着任。



# 法学部 法学科 本間研究室



帝塚山大学と古都飛鳥保存財団は、平成20年に飛鳥をフィールドとした生きた大学教育の推進並びに飛鳥地域の保存・発展に貢献することを目的に、連携協力に関する協定書を締結。毎年実施している連携イベントでは、多くの学生ボランティアが活躍しています。

今年も、9月23日、24日に、高松塚古墳で現代生活学部居住空間デザイン学科の植村和

「飛鳥光の回廊」に参加、イベントを盛り上げる

ボランティア活動を通して、人としての成長を促す

同ルームの活動は、着実に実績をあげています。



帝塚山大学では、平成18年度より心理学部内に「ボランティアルーム」を開設し、学生のボランティア活動の支援、コーディネートをしています。

また、オープンカレッジ（知的障がい者対象の公開講座）の活動等を通して、ボランティアサークルや個人ボランティアの育成を図っています。

心理学部・心理福祉学部学生を中心に、多数の学生が活躍しており、8月19日には、奈良市総合福祉センターにて「第3回ふれあい点字フェスタ」点字でつなごう福祉の輪」が開催され、本学の学生6名および卒業生2名と、ヘルマンハーブサークルの学生5名が、ボランティア

同ルームの活動は、着実に実績をあげています。

ボランティアルーム

ボランティア活動を通して、人としての成長を促す

代教授とゼミ生がインテリアファブリックを展示したほか、夕方から関根俊一教授が率いる人文学部日本文化学科の学生が「飛鳥光の回廊」に参加し、地域住民の方と一緒にキャンドルの設置・点火を行いました。

また、10名の学生が飛鳥時代の古代衣装を身にまとい、飛鳥駅前での誘導や高松塚壁画館での受け付けを行い、イベントを盛り上げました。

被災地支援災害ボランティア活動に参加



奈良県が主催する「学生等による被災地支援災害ボランティアバス」に、気仙沼地区出身の学生が所属する法学部の高ヨンス教授ゼミの学生と現代生活学部こども学科の学生計15名及び落合 史生副学長が参加し、8月12日から8月15日の間、気仙沼災害ボランティアセンターを拠点に、被災地の住戸の片付けや清掃を行いました。

8月12日、学園前キャンパスの人の和広場に

て行われた出発式では、若井 洋副学長から「有志でボランティアに参加する君たちは、大学の誇りであり、奈良県の誇りでもあります。体調に気をつけて頑張って下さい。」と激励の言葉が送られました。また参加する学生らは、「自分たちに出来ることから地道に取り組んでいきたい」と意気込みを語っていました。

帝塚山大学は、今後も引き続き東日本大震災復興支援を取り組んでいきます。

活動報告会の様子を大学HPのトップニュース（11月25日付）に、被災地支援に行った学生のインタビュー記事が、法学部の学部ニュース（10月30日付）に掲載しています。詳しくは、[帝塚山大学](#) [検索](#)



平成23年度ボランティアルーム活動

サマーコンサート2011 四條畷学園高等学校吹奏楽部(BrassBand)視覚障害者のガイドボランティア/視覚障害者明日香方面ハイキング 介助ボランティア/天平祭「さくら茶会」でのおもなしボランティア/NSK第九を歌う会 第二回演奏会 介助ボランティア/奈良市右京保育園 PTA主催キャンプでの保育/天平祭 影絵展/第13回重症心身障害児(者)交流キャンプ/いも掘りプロジェクト大学生スタッフなど



平成、昭和の古事記を創る 赤田研究室、民俗聞き取り調査を実施

「民俗学は、フィールドワークなくしてありえない。地域に長く住み、村の祭りや、村の古くからの世相を知る古者は、生きた歴史そのもの。彼らによって語られる言葉から、その地域の伝統・生活実態がわかる。現地に赴き、聞き取り調査によって生々しい老人の声を記録する。その記録はいわば村の古事記といえます。後世に「今」を伝えるための記録しなければ。話者が死んでしまふと自然と、その文化も薄れてしまふのだから。その記録の積み重ねが、遠い未来の人が「時代」を紐解くための大切な資料になる。」と、地域の伝統や実態を記録することの大切さを訴える赤田 光男教授（人文学部日本文化学科）。

その赤田教授と高田照世非常勤講師（大学院人文科学研究科日本伝統文化専攻博士後期課程単位取得満期退学）が率いる学生及び院生が、

帝塚山大学は、「大学の社会的責任」(University Social Responsibility)を果たすべく、地域社会との絆を深め、共に発展していける、広く社会に開かれた大学をめざしています。そのために、社会が帝塚山大学に求めているものは何かと自問自答し、次世代の育成や、地域・社会貢献活動、国際社会への貢献活動を展開しています。その中の代表的な取り組みを紹介していきます。

10月22日から23日の2日間に亘って、滋賀県甲賀市甲賀町樺野の民俗調査を実施しました。この民俗調査は、「滋賀県民俗行事まるごと調査」の取組の一環として滋賀県教育委員会教育長の依頼により実現したものです。（滋賀県教育委員会では従前から県内各地の民俗調査を行い、記録作成を行っており、「滋賀県民俗行事まるごと調査」では、昭和52、53年に調査した場所を再び調査し、現在の状況を記録し、民俗文化の変容の実態を明らかにしようとしています。）

調査では、樺野区長や地元の方々の案内のもと、甲賀市の神社仏閣や行政に関わる施設等を視察した後、樺野区の古老にお集まりいただき、「民間信仰」「人生儀礼」「年中行事」について昭和53年の調査結果に基づきながら聞き取り調査を実施しました。

聞き取り調査を振り返り、これまでに何度も民俗調査を行っている人文科学研究科日本伝統文化専攻1年の大森拓也さんは、「いつも調査と違い、学部生をリードする立場での参加は新鮮。両幕制※についての知識はあったが、埋め幕を実際に見たのは初めてで、驚きと畏怖を感じた。」、現在、南河内地域の民間信仰について研究をしている日本文化学科3年の春田千尋さんは、「大阪や奈良とは異なる山の神信仰について聞くことで、山の神の祭りを中心に地域の強い絆を感じた。この民間信仰は自然信仰が多いので、仏教の影響が強い南河内地域の信仰と比較してまとめたい。」と今後の抱負を語っていました。

今回の調査結果は、大学でまとめたあと、滋賀県教育委員会に提出されます。滋賀県教育委員会事務局文化財保護課の矢田主任技師は、「滋賀県民俗行事まるごと調査では、若い人の視点をということで、今回大学生に調査を依頼した。実際に現地に入って地元の人からお話を聞くという機会はなかなかないと思うので、この機会を最大限に活かしてもらえば」と期待を寄せていました。

赤田研究室では、平成17年から京丹後市の市史編纂にも携わっており、11月5日から7

**10月23日**

● 聞き取り調査

大正、昭和、平成と3つの時代を生きた古老から語られる思い出話を交えたエピソードに、思わず涙がこぼれる一幕も

**10月22日**

● 山の神視察

山の作業の無事安全を祈る「山の神」にまつわる信仰について学ぶ

● 樺野寺視察

● 阿弥陀寺視察

● 大鳥神社氏神見学

● 油日神社氏神見学

**10月22日**

● 樺野川砂防ダム視察

住民の生活や文化と密接な関わりがある樺野川砂防ダムの視察

● グリーンハウス樺野視察

● 農事組合法人甲賀エコファームいちのちの施設見学

滋賀県甲賀市甲賀町樺野の民俗調査スケジュール

日に亘って、大学院生が赤田教授とともに京丹後市の現地調査を実施。6年に亘る研究成果は、来年京丹後市より『市史民俗編』として発行される予定です。また平成7年より「帝塚山民俗談話会」を発足して、一般の方も交えて、他大学の大学院生や教員の発表、民俗学に纏わる施設等の見学会も行うなど、地域に根ざした活動も展開しています。

※両幕制（りょうぼせい）：遺体の埋葬地と霊魂を祀るための祭地（石塔墓地）を分ける日本の葬制習俗の一つ。





## 帝塚山大学特別客員教授 寺島 実郎氏による特別公開講座を開催しました

大学の特別客員教授の寺島 実郎・財団法人日本総合研究所理事長が11月18日、大阪中之島の大阪市中央公会堂で、今年の秋季特別公開講座「世界を知る力 日本創生への視座」を開催しました。寺島氏の著書やメディア出演でファンが多く、会場には約400人の一般市民や学生たちが参加しました。

寺島氏はまず、豊富なデータを収録した「寺島実郎の時代認識 資料集2011年秋号」の数字を挙げながら、世界の動きを分析。

そして、冷戦終焉から20年・9.11同時テロから10年に当たる今年を、アフガンとイラク戦争による米国の悲惨な消耗と内向化の結果、世界秩序が「米国中心のドル機軸体制の静かなる崩壊」に至る中で、中東情勢の民主化という混迷などもあり、無極化し始めた年と意味づけました。

その上で、東日本大震災の衝撃つまり、地震・津波・原発事故という3段重ねの苦しみの渦中にある日本は、社会システムの総体がパラダイムの転換を迫られていると指摘。とりわけ、原子力エネルギー論議の中で、「シェー

ルガス革命」に沸く米国の「非在来型天然ガス」開発への急速な旋回は、日本のエネルギー国家戦略の今後にも大きく影響し、注視すべき問題だと述べられました。参加された方々は、寺島特別客員教授の最新のデータに裏付けられた講義に引き込まれ、熱心にメモを取っていました。



## 香芝市と「連携協力に関する協定」を締結しました

11月7日、香芝市役所にて「香芝市と帝塚山大学との連携協力に関する協定書」調印式を行いました。

調印式では、香芝市の企画政策課上平係長から協定書調印に至る経緯、吉村企画部次長から協定書の概要説明として協定書が読み上げられた後、梅田 善久香芝市長と山本 良一帝塚山大学学長が協定書に署名。署名後の挨拶で、梅田市長は「市民の行政に対する多様なニーズに応えつつ、まちづくりをいかに進めるかが大きな課題であり、市民参画型のまちづくりを推進してきた。その中で帝塚山大学の中川 幾郎先生や三木 善彦先生に協力いただいた。

こうした経緯もあり、今後の市政推進のために帝塚山大学と連携協定を締結し、さまざまな分野で協力いただきたい。また、市としても帝塚山大学の発展に尽力し、お互いがプラスになるようにしたい。」と述べられました。また、山本学長からは、「大学の教育・研究の成果やノウハウを香芝市に活用いただけるのは非常に嬉しいことであり、我々としても教育と研究の場の提供につながり、ありがたいことである。今後も交流を深めていき、市の発展に寄与していきたい」と期待を寄せていました。

帝塚山大学と香芝市は包括的な連携のもと、



まちづくり、産業及び文化芸術振興、心のケアとサポート、教育等の多様な分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与してまいります。

## 職員紹介

### 学生支援センター部長 清川 欣延

現在、学生支援センターの部長として、学生生活、国際交流、キャリアセンターの各部署を統括しています。学生の皆さんにとって大学の4年間は、長い人生の中で一番時間にゆとりがあって好きなことに思い切り打ち込めることのできる貴重な時期です。この大切な時間を無駄にする手はありません。何かひとつでも打ち込めるものを見つけ、思いきりやってみることは必ず将来、役に立つはず。それは、勉強でもクラブ活動でも趣味でも遊びでも何でもいいと思います。学生時代にしかできないことをすることが大切なのです。思い切って海外に飛び出してみるのもいいじゃないですか。君たちは、人に絶対に負けないものを何か持っていますか。持っていない人は早く帝塚山大学でそれを見つけて打ち込んでみましょう。



### 図書館館課 小松 愛

学園前キャンパス図書館で、読みたい本の探索やレポート・論文を書くための文献調査のサポートなどを行う、司書の仕事をしています。

大学生の間にしか出来ないこと、その1つが多読だと思います。勉強のための本だけでなく、少しでも興味を持った本は、出来るだけ手に取って、始めだけでも読んでみてください。社会人になると実感しますが、学生時代、特に大学生にしか出来ない感動というものがあります。学生時代に出会った本は、その冊数だけ、これからの自分を支え、いつか必ず皆さんの役に立ちますよ。たくさん本の中で、1冊でも時間を忘れて没頭するような本に出会えるよう、図書館では色々な本を揃えています。是非、学生時代に図書館を利用し尽くしてください。



## 平成23年度保護者懇親会・保護者相談会を開催しました

平成23年度の保護者懇親会を、9月18日に、ホテルグランヴィア大阪にて開催しました。保護者懇親会は、保護者の方々が会員の後援会の全面的な支援のもとに実施している行事の1つで、保護者の皆様と大学教職員の方々が直接顔を合わせて、相互理解を深め、互いの親睦を深めることを目的に、毎年秋に開催しています。今年度は、昨年に引き続き卒業生の保護者の方々が会員のファミリークラブの皆様もご参加いただき、後援会との交流を深めていただきました。

午前の部では、細川 順子後援会長ならびに山本 良一学長の挨拶に続き、岩井 洋副学長から学生生活について、保護者の方々へのお願いも兼ねた報告がありました。引き続き、

現代生活学部子ども学科の村尾 忠廣教授が、「日本人のリズムとリズム感」と題して講演しました。

そして、ヘルマンハーブサークルによる演奏をみんなで行われた午後の部は、細川後援会長と山本学長の挨拶に続き、中山 伸副学長の乾杯で始められ、大学教職員を交えて和やかに歓談しました。心理学部の三木 善彦教授の手品の披露に加え、電子辞書やアロマ加湿器などの景品を用意したビンゴゲームで会場は盛り上がりしました。

また、11月19日、20日には、東生駒キャンパス・学園前キャンパスを会場に保護者相談会が開催され、約200名の保護者の方々も参加されました。保護者相談会では、山本学



長による挨拶に引き続き、岩井副学長による大学の概要、教育の実践についての紹介が行われ、その後、各学部別の全体ガイダンス、学業、学生生活、就職、国際交流等に関する個別の相談などが行われました。

帝塚山大学では、学生、保護者、教職員の絆を大切にしながら様々な活動を行っています。

## 第63回正倉院展協賛を記念して様々なイベントを開催

帝塚山大学は、奈良に立地し、日本文化を学ぶ学科を有する大学として、奈良国立博物館が主催する正倉院展に平成18年より協賛しています。今年も関根 俊一教授（人文学部日本文化学科）を中心に大阪での正倉院フォーラムを皮切りに、協賛を記念して、様々な関連イベントを開催しました。

まず9月17日、松下IMPホールにて「正倉院フォーラム2011大阪」(主催:読売新聞社、NHK大阪放送局 協賛:帝塚山学園・帝塚山大学ほか)が開催され、関根教授が、「今に生きる正倉院～奈良が伝えてきた古代文化～」をテーマに、春日大社権宮司の岡本 彰夫氏と対談しました。対談では、今回の正倉院展で注目されている「金銀鍔唐太刀(きんぎんでんそうのからたち)」や、春日大社の宝物「紫檀地螺鈿毛抜形太刀(したんじらでんけぬぎがたち)」をクローズアップして、

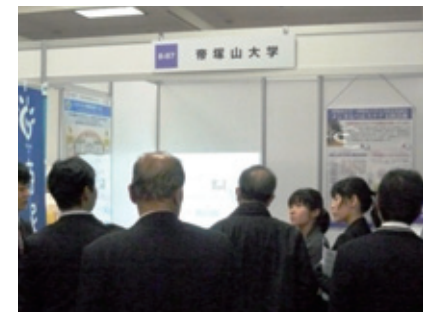
正倉院と春日大社の共通点やデザイン、技法の変化についてそれぞれが解説し、続いて春日大社に伝わる様々な舞楽や儀式に触れながら、古代芸能や文化・技術の継承について語りました。会場訪れた約700人の参加者からは、様々なエピソードに、今年の正倉院展への期待を膨らませていました。

そして、10月29日には「高円高校生のための正倉院講座」及び「高校教員のための正倉院展講座」を、10月30日には「中学生・高校生のための正倉院展講座」を、そして11月12日には「奈良育英西中学生のための正倉院展講座」を、奈良市内にて開催しました。講座は、関根教授が、正倉院の宝物等についてスライドを使ってわかりやすく解説し、講座終了後は、東大寺や正倉院校倉の見学を行った後、奈良国立博物館で開催中の正倉院展を見学しました。講座には、静岡県から岡



山県までの幅広い地域からの高校教員の方や、中学生・高校生および保護者の方々に参加いただき、「実際に正倉院とその宝物に長年関わってこられた関根先生のお話にはリアリティが感じられ、歴史が苦手な娘も楽しんでいました。」「博物館で実物を見ながら、ご講話くださった内容を想い出し、遙かな歴史の流れに思いを馳せることができました。」といった声が寄せられました。

## 産学連携 - ナント農商エビジネスフェア2011に参加



12月7日、南都銀行との産学連携の一環として、昨年に引き続き「ナント農商エビジネスフェア2011」(主催:南都銀行、南都経済センター)に、ブース出展しました。

このフェアは、出展企業と来場者のビジネ

スマッチングを図ることが狙いで、今年は約150の企業・機関の参加があり、教育機関からは、同行と産学連携を行っている9大学が出展しました。本学からは、産学連携ゾーンに、心理学部および大学院心理科学研究科によるメンタルヘルスケアの取組と、本学独自のeラーニングシステム「TIES (Tezukayama Internet Educational Service)」の取組を出展し、企業活動支援事業について、PRしました。

本学ブースには、多くの方が来訪し、本学の今後の取組に高い関心を示していました。本学は、今後も積極的に産学連携に取り組んでいきます。

## 教員表彰

おめでとうございます  
日本体育学会奨励賞 受賞!

田中 美史 講師  
(経済学部 経済学科)



論文  
“The relationships between Psychological / Psychological Changes and Behavioral / Performance Changes of a Golf Putting Task under Pressure.”



国際交流

NZ海外協定校から  
スタツフが来学

震災後初の短期語学研修にむけてPR  
Kia Kaha!一緒に頑張ろう!

今年二月、マグニチュード六・三の大地震に襲われた本学の海外協定校・クライストチャーチポリテクニク(CPIT・ニュージーランド)から国際交流担当者の林英樹さん(写真左から2人目)とキャロライン・ショウさん(同写真左)が十月二十六日、来春の短期語学研修のPRを兼ねて来学。説明会に出席し、集まった学生らに、日本とともに復興の道を歩むニュージーランドについてアピールしました。

Kia Kahaとは、先住民マオリ族の言葉で「強くあれ」。現地では復興の合言葉になっています。地震発生時、本学の短期語学研修中の学生ら十五人がCPITのキャンパスにいましたが、幸い全員無事でした。

毎年、春休みを利用して行われるこの研修。今回は震災後初の実施に向けて、普段はCPITスタッフ一人のところ二人が来訪、「復興」の意気込みが感じられました。説明会は軽食を採りながら行われ、経験者ら学生二十二人が参加。林さんの「震災からの復興も順調に進んでおり、研修に何の支障もないので安心して」という言葉に学生は真剣に聞いていました。今年二月に参加した学生が「被災経験を通じて、現地の方々から受けた温かい支援に優しさを感じる事ができました」と涙ぐみながら話す姿が印象的でした。

(学生生活課国際交流担当)



2012年度 学部入試日程一覧

入試区分	受付期間			試験	合格発表	
	開始	最終	持込 (本学持参)			
一般入学試験	A日程前期	1月6日(金)	1月18日(水)	1月19日(木)	1月24日(火) 1月25日(水)	2月1日(水)
	A日程後期	1月6日(金)	1月31日(火)	2月1日(水) 2月3日(金)	2月5日(日)	2月10日(金)
	B日程	1月24日(火)	2月16日(水)	2月17日(金) 2月18日(土)	2月21日(火) 2月22日(水)	3月1日(木)
	C日程	2月20日(月)	3月9日(金)	3月10日(土) 3月12日(月)	3月14日(水)	3月17日(土)
センター試験 利用入試	前期	1月6日(金)	2月2日(木)	—	—	2月10日(金)
	後期	2月20日(月)	3月9日(金)	—	—	3月17日(土)
外国人留学生 後期・指定校		1月18日(水)	1月31日(火)	—	2月21日(火)	2月29日(水)

入試区分	受付期間			試験	合格発表	
	開始	最終	持込 (本学持参)			
AO入試	3月入試	3月1日(木)	3月13日(火)	3月14日(水) 3月15日(木)	3月19日(月)	3月20日(火)

※各試験の、選考方法、実施学部については、入試課にお問合せまたは、ホームページ (<http://www.tezukayama-u.ac.jp/admission/>) でご確認ください。

**お問合せ先** 帝塚山大学 入試課  
Tel: 0742-48-9149 (直通) Fax: 0742-48-9021  
E-mail: nyushi@jimu.tezukayama-u.ac.jp

2012年度 大学院 入試日程

出願期間 **1月27日(金)~2月3日(金)**

締切日消印有効

選考日程 **2月14日(火)※** 合格発表 **2月22日(水)**

※ 選考方法については、各学部事務室にお問合せ下さい。

博士前期課程

- 人文科学研究科日本伝統文化専攻
- 経済学研究科経済学専攻
- 法政策研究科世界経済法制専攻
- 心理科学研究科心理科学専攻

博士後期課程

- 人文科学研究科日本伝統文化専攻
- 経済学研究科経済学専攻
- 法政策研究科世界経済法制専攻
- 心理科学研究科心理科学専攻

お問合せ先

人文科学研究科日本伝統文化専攻  
人文学部 Tel: 0742-48-8150 Fax: 0742-48-9025  
E-mail: hjimu@jimu.tezukayama-u.ac.jp

経済学研究科経済学専攻  
経済学部 Tel: 0742-48-9861 Fax: 0742-48-9308  
E-mail: keizai@jimu.tezukayama-u.ac.jp

経済学研究科経済学専攻  
経営情報学部 Tel: 0742-48-9202 Fax: 0742-48-9308  
E-mail: bjimu@jimu.tezukayama-u.ac.jp

法政策研究科世界経済法制専攻  
法学部 Tel: 0742-48-9461 Fax: 0742-48-9463  
E-mail: jjimu@jimu.tezukayama-u.ac.jp

心理科学研究科心理科学専攻  
心理学部 Tel: 0742-41-4720 Fax: 0742-41-4905  
E-mail: shinri@jimu.tezukayama-u.ac.jp



「大学通信帝塚山」 企画・編集委員会  
〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1  
TEL 0742-48-9341 FAX 0742-48-9030  
[E-mail] koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp  
[URL] http://www.tezukayama-u.ac.jp/

読者の方々の  
声を  
お待ちしております



「大学通信帝塚山」は、大学の各種情報を多くの方々に知っていただくと同時に、読者の方々と大学の双方向コミュニケーションの促進をめざしています。本誌の記事、本学の教育・研究内容などについてのご意見・ご感想や、「大学通信帝塚山」に取り上げて欲しい内容についての皆様の声をお待ちしております。いただいたご意見等は次回以降の「大学通信帝塚山」に反映させていただきます。※宛先は左記を参照してください。なるべく、ご住所、お名前、電話番号の記入をお願いいたします。

「大学通信帝塚山」について、ご意見をお送りくださった方全員に、帝塚山大学グッズをプレゼントします。